



ねこだけ通信

南郷谷リハビリテーションクリニック便り

令和5年 7月発行 第6号

命名「淳永」

姓は渡邊、名は淳永（あつなが）と申します。「ご実家はお寺さんですか」と尋ねられることが有りますが、豈囃らんや、八百屋の息子でございませう。

64年前私がこの世に生を享けた時、渡邊家の初孫ということもあって、祖母フクエを初め叔母たちは大喜びし、母テル子から私を取り上げて、下へも置かぬ可愛がり様だったと聞かされました。

「名前は何にするか」生れ出るまで十月十日の猶予があり、予めいくつかの名前の候補を用意しておけば良さそうなものですが、生れて何日経っても父照國は私の名前を決められずにいました。

出生届の期限14日が迫ったある日、父は突然、「敦盛」にする！と皆に宣言しました。平家物語で有名な平敦盛（たいらのあつもり）にすると言うのです。

「敦盛」は美少年やったばってん、早死にした。絶対にならん！」すかさずフクエばあさんからダメ出しが来ました。

★ ★ ★ ★ ★

平家物語「敦盛最期」の名場面。熊谷直実が敵の騎馬武者を捕らえ兜を剥くと、そこには齡我が息子と同じ頃の薄化粧をした美少年が！

首を刎ねるのをためらった直実が若武者を逃がそうとするも、若武者はそれを拒み「ただ、とくとく首をとれ」とそのたまひける。直実は「泣く々々首をぞかいとんげる」



祖母のダメ出しに窮した父は苦し紛れに「敦」を「淳」に変え、また短命を避けるため「盛」を「永」に差し替えて「淳永」としたらしいのです。

そのお陰で、私は長じて美少年となり、敦盛より4倍も長生きすることができました。

三ヶ日みかん

約30年前、私は愛知県東部の新城市市民病院に勤務していました。「新城市」と聞いてもご存じの方は少ないと思います。病院から数kmの所に信長・家康連合軍が武田勝頼と戦った「長篠・設楽原の戦い」（1575年）の古戦場跡が

あり、鉄砲隊が構える馬防柵が復元されています。現在放送中の大河ドラマ『どうする家康』の舞台といえばお判りでしょう。

新城市は「奥三河」と呼ばれる愛知県の山間部にあり、我が市民病院は奥三河唯一の総合病院であり、へき地診療の「前線基地」としての役割を担っていました。私を含め若手・中堅医師の多くは名古屋大学、愛知医科大学、藤田保健衛生大学からローテート派遣で、多忙ではあるけれども充実した日々を送っていました。

新城市から北に約20km、設楽町（したらちよう）に添沢温泉・雲泉閣という老舗旅館がありました。Mさんご夫妻が営まれ、奥様が旅館女将として切り盛りされていました。中学校の校長であったご主人も旅館経営に専念されたため数年を残し早期退職されたそうです。

ご主人は肝臓病の治療のために月に1度、麓にある市民病院の私の外来に通われていました。背が高く威厳のあるご主人が診察室に入って来られると、その後ろにはいつも小柄で上品な奥様がにこやかに付き添われていました。

その後6年間通院は続きました。私が長崎に帰ることが決まると、ご夫妻はとてもし念がられ

「先生の送別会はうちの旅館でやりましょう」とご招待下さり、多くの病院職員と泊りがけでお邪魔しました。その夜は遅くまでどんちゃん騒ぎをしたことを覚えています。

あれから30年、ご主人はお亡くなりになり、老舗旅館は惜しまれつつ閉じられました。年の瀬になると、毎年箱詰め

の三ヶ日みかんが届きます。早速奥様にお礼のお電話を掛ける、電話の向こうから「先生お元気でいらっしやいますか。わたくし、お恥ずかしいことに九十六にもなりました。今年三ヶ日みかんは、あまり出来が良くないそう、先生のお口に合いますか心配しておりますの」お嬢様言葉が聞こえる。電話の最後には「先生、くれぐれもお体ご自愛くださいませ。ごめんあそばせ」と締めくくられる。

亡くなった患者さんのご家族との繋がりがその後も長く続くことは、一番の「医者冥利」と言えます。秋の連休には久しぶりに新城時代の同僚と酒を酌み交わし、Mさんにお会いするために奥三河を訪ねることにします。





スタッフ紹介 庭いじり

事務部 佐藤 千代子

私は、昭和60年9月9日の開院以来の医療事務員として働かせていただいています。今年で38年目を迎えますが、2人の子供たちが小さい頃は、ただ忙しく、毎日を過ごすことで精一杯だったように思います。そんな忙しい中でも充実した日々を送ることができたのは、周りの皆さんの助けがあったからだと思っています。

私は庭いじりが好きです。コロナ禍の中でもストレスを溜めることなく過ごせたのは、我が家の庭の草花のおかげです。草むしりも庭がきれいになると思うと、夢中になれるので楽しいものです。もうすぐラベンダーも満開になり、蜂もやってきました。色んな花たちも狭い花壇でところ狭しと開花の時季を待っています。3年間花をつけなかったシャクヤクも、今年は3つも花を咲かせてくれました。



中には高森の寒さに耐えきれず、なくなってしまうものもありますが、それはそれでおもしろく思います。現在のマイブームは、宿根草です。毎年花を咲かせてくれるので重宝します。

ようやく新型コロナも第5類になり、院内の検温もなくなりましたが、患者様の様子や待合室の環境に気を配りながら、笑顔で対応させていただきたいと思っています。これからもよろしく願います。



スタッフ紹介 感謝

リハ部 山縣 天太

皆さんこんにちは。今年の5月1日に「熊本リハビリテーション病院」から「南郷谷リハビリテーションクリニック」に異動となりました、山縣天太と申します。今回自己紹介という貴重な機会を頂いたので、普段は皆さんになかなか話すことが出来ないことを皆さんにお伝えしたいと思っています。

僕は高森町からは少し離れた益城町という町に生まれ、その町で育ちました。益城町は高森町とは少し距離が離れています。南郷谷リハビリテーションクリニックに異動となる以前から高森町にはよく足を運んでいました。

僕はバイクが好きで、普段はよくバイクに乗っています。ツーリングが大好きで、休みの日で天気の良いればすぐに阿蘇方面にバイクを走らせていました。高森方面にもよくツーリングに来ていました。春には千本桜を見に行ったり、夏には湧水トンネルに「涼」を求めて遊びに行ったりしていました。

らくだ山に地鶏を食べに行ったりしたこともありました。そんな思い出いっぱい町で皆さんのリハビリのサポートをすることができて、とても嬉しく思っています。



僕は、理学療法士の仕事を始めて5年が経ちました。大学を卒業後すぐに菊陽町にある「熊本リハビリテーション病院」に入職しました。入職当初は右も左も分からない状態、患者様とのリハビリの際も緊張して患者様との会話がうまくいかないことが何度もありました。それでも多くの先輩方の温かい支援のお陰で日々の業務を行えるまでに成長できました。南郷谷リハビリテーションクリニックに来られる方々はとてもお話し上手な方が多くて、リハビリをしながら僕が皆さんに元気をもらっていることも多いです。まだまだ経験が浅い面もありますが、皆様のご要望や期待に少しでも応えることができよう日々の業務に取り組んでいきますので、今後ともよろしくお願い致します。

